

平成29年度山形県立新庄神室産業高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標 (生徒像) 志高 創造 自立	幅広い知識と技術を身につけ、地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成 柔軟な思考とたゆまぬ実践により、真理を探究する人間の育成 個性を尊重し、豊かな感性と創造性に富む人間の育成 心身ともに健全で、正義感あふれるたくましい人間の育成
---------------------------	--

中期目標	規範意識を高め、社会性と自ら進んで行動する力を育成する学校 基礎学力の定着と向上を図りながら、一人一人の進路実現に向けたキャリア教育の充実に努める学校 特別活動の充実を図り、心身の健康と協調性を育成する学校 地域と積極的な交流を図り、地域の活性化に貢献できる学校 積極的な情報発信を行い、信頼される学校づくりに努める学校
------	--

達成度：A達成 B概ね達成 Cやや不十分 D不十分

重点目標	評価項目	自己評価			学校関係者評価	
		具体的方策と指導基準	目標の達成状況、達成に向けた取組み状況と分析	達成度	次年度に向けた方策	意見等
(1) 授業改善により確かな学力とコミュニケーション力の育成を図る。	すべての生徒にとってわかる授業づくりをするために、たゆまぬ授業研究に努め、常に生徒に寄り添い指導することで、生徒の学習意欲の喚起、学力の向上を図っているか。	①出席率99.0%以上、精勤者20%以上をめざす。	出席率は99.03%で目標は達成しているものの、昨年度99.1%で若干出席率が低下している。特定の生徒が何度も欠席することが多かった。各担任が家庭との連携や授業の大切さなど根気強く指導を続けた。また、遅刻が多い生徒については個別指導を行い改善しているところである。	C	引き続き家庭と連携しながら、健康管理と授業の大切さを、地道に指導継続する。	B ・出席率は昨年度よりもほんの少し下がっているものの、高い目標を達成しているため、取組みの成果が出ているものと思われる。 ・欠席者、または、欠点保有者は毎年同じ生徒になる場合が多いと思われるので、粘り強い個別指導をお願いしたい。 ・不登校にならないさせない。入学者＝卒業生に努めてほしい。 ・学力で上位と下位の差が大きいと言われているので、朝学習等で基礎学力の向上を図っていただきたい。 ・若者の読書する習慣がなくなっていると言われており、朝の読書の取組みは良いと思う。読書の習慣をつけるのは、高校時代までの期間であると思うので、継続して取組んでもらいたい。 ・実験実習や課題研究は、体験を通して幅広い学習ができるので、生徒が興味を持てる題材の選定に努めてもらいたい。 ・高校は集団生活を学ぶ最後の場である。大切にしていきたい。
		②成績不振者数の削減（昨年度以下）、基礎学力診断テストにおけるD3者数の削減（各学年15%以下）をめざす。	欠点保有者は学期末平均21.5人とほぼ昨年度16人から増加した。3年生は例年より少ないものの、1・2年生の欠点保有者が多かった。基礎学力テストにおけるD2およびD3の生徒に対し、各教科の協力を得て補習を行いD3者数を削減することができた。また、結果を受けて、教科担当者と連携して補習授業を実施した。下位層は学習に対する意欲の向上がなかなか見られなかった。	B	教務部と進路指導部と連携し、定期試験、基礎学力診断テスト、出欠等の分析・データベース化して、学習及び進路意識の向上を図る。これを基に基礎学力の定着と上位層の向上を図りながら、進路目標を意識した学習活動が出来るようにする。	
		③生徒授業評価を年2回以上実施する。	7月と12月に授業アンケートを行い、指導法の点検・改善を図ることができた。	B	アンケート結果を教科内で分析・改善に繋げる機会を増やす。	
		④年3回の「朝の読書」を実施することで、積極的な図書館の利用を推進し、前年以上の利用率をめざす。	朝の読書はおおむね計画通り実施することができた。図書貸出し冊数も昨年度に比べて増加した。また、図書館の授業での利用は昨年度に比べ減少したが、LHRでの利用は増加している。	B	朝の読書の実施に際して、アンケート等で要望を集約し、より取り組みやすいように改善する。	
		⑤実験実習の中で、体験を重視し、知識・技術を理解・習得させる。	学年の系統性を考慮した作業・実験を指導し、実践的な実習を行うことができた。怪我等もなく安全に行うことができた。	B	昨今の技術革新やニーズに合う実習内容を精選する。	
		⑥地域のニーズや特色を積極的に取り入れ、学習教材の充実を図る。	課題研究で地元のニーズや抱える課題のテーマに取り組んでいる。	B	更に地域のニーズや変化の内容を察知する必要性がある。	
(2) 地域に期待される社会性を身に付けた人づくりに努める。	学習環境の改善、安心安全の確保、モラルの改善を図りながら、部活動・地域活動等により地域産業の発展に貢献できる、専門性を持った人材を育成しているか。	①時間管理の徹底と学習環境の整備に努める。	「神室5S活動」の実践により、学習環境の改善が見られた。授業開始時に服装等について観察指導してから授業に臨むよう努めた。教室の学習環境整備について、清掃点検でも呼びかけ、10月に全生徒・職員協力のもと教室清掃、整備に取り組んだ。1学期と比較し2学期については、75%のクラスで点検評価が向上した。しかし、まだ机上やロッカーが乱雑になる場所があった。授業開始時のベル着についてはクラス差が見られるが、教室以外での授業に遅れる場面は少なかった。	B	学年及び関係分掌と連携し、学習への意欲を高めながら学習環境の整備とベル着の徹底を図る。状況に応じて全校での清掃強化に取り組む。机上の私物が目立つので、授業開始時の取組ませ方を工夫する。	B ・服装や時間等の遵守等の神室5Sの実践は、マナーや学習姿勢を高める環境づくりに大切であり、その成果も出ているようなので、継続して実施してもらいたい。 ・地域貢献活動及び各種大会での積極的な取組み及びその活躍は、生徒本人のコミュニケーション力の養成や自信になるばかりではなく、生徒の頑張りが地域の活性化にもつながるので、教育的効果や地域の要望を検討しながら実施してほしい。
		②地域貢献活動を計画的に行い、コミュニケーション力の育成と学校PRを行う。	ボランティア活動や地域行事への積極的な参加も例年通り行った。また、中学校グラウンドのトラック整備に係る出前測量を行った。	B	地域の要望も考えながら継続的に実施する。	
		③各種大会やコンテストへの取組みや参加することにより、学校が活性化し、地域に活力をもたらす。	各種大会にて入賞者が増加し、学校活性化につながっている。農業クラブ県連家畜審査競技会で最優秀を受賞し、東北大会と全国大会に出場。ものづくりコンテストでは、旋盤作業、電子回路組立電気工事に参加し、電子回路組立3位、電気工事2位の成績である。サーベイコンテストにおいては、5年ぶりの総合優勝に輝いた。東日本コンクリートカヌー大会優勝 土木系学生によるコンクリートカヌー大会3位に入賞することができた。	B	更なる活性化に向けて取り組みを充実させたい。また、教員の多忙化という問題がある中、外部講師からの指導を検討する。	
(3) 地域の唯一の専門高校としての責務を果たすために進路指導の充実を図る。	進路指導体制の充実を図ると共に、関係機関と連携を取って、適切な情報提供と、進路決定100%をめざすと共に、管内就職率の向上を図っているか。	①地域や専門学科に関する資料を収集し、情報提供に努める。	地域の優良企業を積極的に訪問し地域理解に努めるとともに、生徒に必要な就職情報等を入手することができた。授業では3年生に対する情報提供や2年生に対する心構え等の話題にも触れる機会を持った。また、地元企業のみならず総合支庁、市役所、県土整備課、最上建設業協会など公的機関とも連絡を密にし、講演会などを数多く実施した。	B	これまで就職実績がなかったところも開拓していく。情報提供するだけでなく、生徒理解につながる工夫実践し、成果につなげる。	B ・人は動かなくてはいけないので、将来（社会）へ向けての指導をお願いしたい。 ・地域で唯一の専門高校として、進路（就職）指導については、地域企業とつながりや総合支庁との連携などをしながら取組んでおり、成果も出ている。 ・産業高校としてデータ（Uターン等）を積み上げ、同窓会や同級会などでリサーチしてほしい。 ・地域では若い農家が集まって新たな試みをしている。農家のイメージが改善した。農業後継者育成に力を入れて、農業の魅力を発信して欲しい。 ・資格取得については、生徒の就職に有利に働くばかりでなく、集中力の養成や自信につながるものなので、多忙の中ではあるが、工夫しながら対応してもらいたい。
		②進路指導部や学年が連携を図り、教科指導においても進路意識の高揚や基礎学力の定着に努め、早期の進路達成をめざす。	ほとんどが希望の進路を達成している。求人数は例年以上で進路達成状況はほぼ順調である。校外でのガイダンスへの参加や、生徒の進路希望をもとにした企業訪問を数多く行った。しかしながら様々な生徒の状況から年度内100%の達成は年々厳しくなっている。進学者への指導は学年独自での取り組みも行い、また、進路達成に向けて、担任が夜遅くまで学習会を行ったり、学科集會を設け、進路や資格取得について取り組むよう促している。	B	本校だけでは解決できない問題も抱えているため、これまで以上に各関係機関や外部団体との連携が必要である。資格取得に取り組む生徒の数に物足りなさを感じることもあり、進路と連動した資格取得について検討する。	
		③資格取得や各種検定に積極的に取り組ませ、合格率向上を図る。	各種資格の取得状況は例年並みといえる。本校で実施している各種資格取得の状況を保護者に提供したり、図書館内に資格取得に関わる参考書・問題集のコーナーを設けることができた。しかし、取り組みをさせてはいるが、指導する側の多忙化などが課題となっている。	B	資格取得を呼びかける掲示板を廊下等に準備できないかなど周知のためのコーナーの更なる充実を図る。また、教員の多忙化という問題があるが、受験させるで終わらず、合格につなげる指導体制をとる。あわせて、取り組む資格の精選も検討する。	
(4) 日常的な防災教育の推進と生徒・教職員の心身の健康保持に努める。	災害発生時の役割を確実にし、日頃の施設設備の点検に努め、学校事故を未然に防いでいるか。	①安否確認訓練を実施し、災害時の円滑な情報収集と確認の体制を整える。	12/15に生徒・保護者、教職員を対象に帰宅時の災害を想定して実施した。生徒（保護者）の参加は131名、教職員の参加は17組（2名ひと組）。年々メール連絡網加入率が高く参加率が上がった。学校へ安否連絡が徹底されたところがあった。	B	事前の周知、呼びかけに力を入れていくことでメール連絡網の登録数を更に上げ、安否訓練に参加できる体制を整える。	A ・学校では、生徒が安全で安心して学業等に専念できる環境づくりが大切である。そのための各種の訓練や日常の点検を計画的または定期的に行っている。今後とも引き続き実施してもらいたい。 ・メール連絡網での情報も適宜送信されていた。
		②毎月安全の日を定め、施設設備の点検、安全な教育環境の整備を徹底し、施設設備に起因する事故の絶無を図る。	毎月安全の日を定め実施した。体育館アリーナの事故防止の調査を3ヶ月間実施し、問題がなかった。施設設備のみならず、掃除用具関係の不具合などの情報収集もできた。授業時の怪我対応に伴い、事務部とも連携し早急に危険箇所の修繕を行った。	A	引き続き安全点検を実施し、事務部・技能員や保健部と連携し早期修繕、環境整備に努める。	
		③実習時の服装や臨む態度への指導を強化し、安全な学習活動を実践する。	実習時の整列の際に服装指導を徹底し身だしなみを整え、実習に臨むことができた。また、学校保健委員会では夏季の学習環境が話題となった。保健室にも熱中症の前段階症状の生徒が多く来室し、水分摂取や湿度管理など対応が望まれる。	A	引き続き身だしなみ、忘れ物がなにか等の指導と徹底する。また夏季の実習環境については第一として熱中症の簡易的な対応について、関係部署と検討する。	
(5) 本校教育の「見える化」を推進し、組織的、戦略的な情報発信に努める。	魅力的なホームページの作成に努めるなど、タイムリーな情報が提供されているか。	①学校説明会参加生徒250名以上をめざす。	昨年度より多くの中学生と保護者を迎え、全職員と生徒の協力を得ながら学校説明会を実施し、本校教育への理解を深めることができた。	A	複数回の実施を検討し、より多くの中学生及び保護者へ本校の魅力を理解してもらえるように努める。	B ・学校の円滑な運営には、保護者を含めたPTAや同窓会、地域住民等の協力が不可欠である。その中で、学校説明会及びPTA総会等の出席率は向上しており、学校理解につながると思われる。 ・学校のホームページにより学校情報を発信していることは良い取組みであるが、旬な情報が求められており、行事等は年間計画で決まっているものも多いので、担当者を事前に決めておくなど、できるだけ早く掲載できるようにしてもらいたい。 ・紙媒体での広報もさらに展開すべきである。 ・行事やイベントを生かした情報発信が大切である。
		②学校HPを適宜更新し、学校情報を適切に発信する。	本校HPの活用は部署によって開きがあった。学校行事や部活動に関する活動・活躍状況を随時HPに掲載するなど情報発信に努めたが、科の取り組みやコンテストへの参加結果などは、タイムリーに更新できたとは言えない。進学・就職合格者一覧は廊下に掲示し、来校者に周知することができた。	B	掲載情報を幅広く提供していただくために、継続して呼びかけを行って、時間を空けることなく、タイムリーに更新するように努める。	
		③保護者の参加率PTA総会35%以上、PTA理事会40%以上、地区PTA40%以上をめざす。	総会42.5%、地区PTA39.0%、理事会70.3%の参加率であった。総会は日曜日ということもあり参加率が高かった。他の活動でも保護者の協力を得ることができた。地区PTA活動は、保護者と生徒がともに参加する活動を計画する地区が増えつつある。	B	学年団と連携し学年PTA活動や学級PTA活動をできるだけ早期に実施することで、保護者への理解と協力が得られやすくなるように働きかけを行う。	
		④各種イベントへの参加を計画的に行い、専門教育が一層理解されるよう努める。	学校祭、産業高校展、ものづくり博等に参加し、本校の活動を理解していただける取組の一助となった。	B	参加体制やPRの仕方を工夫し、より身のある出展を検討する。	
(6) 師表たるべき教師に向けて努力する意識を醸成する。	高い使命感と職業意識を持ち絶えず研鑽を積んでいるか。	①業務におけるコミュニケーションを図り、風通しの良い職場に努める。	情報共有と連携、仕事しやすい環境づくりにつとめた。関係部署内では日頃のコミュニケーションを密にし、お互いの意見を深め声をかけ合いながら仕事上の意志疎通を図ることができた。特に重要な件は文書にまとめて確認した。縦と横の良好なコミュニケーションと情報共有、情報が停滞しないようなスピード感を持って、さらに協働が進むよう心掛けている。	B	お互いに仕事上の悩みや不満を抱え込まないような雰囲気を持ち、情報を共有して業務に取り組む連携することで、信頼しあえる職場環境を作る。	B ・現在、なかなか個人的な悩み等に踏み込めない状況にあり、そのような中で、情報の共有やコミュニケーションを密にすることで、仕事や相談をしやすい環境づくりに努めている。 ・教職員のスキルアップについては、時代の変化や生徒の状況に対応した指導が必要のため、常に研鑽が必要であり、その点から公開授業及び校内授業研究に積極的に取り組まれている。ベテランから、また、若い教職員相互に学んだり気づかせられる点があると思うので、改善を図りながら行ってもらいたい。
		②公開授業および校内授業研究会を前年度以上実施する。	各教科の協力を得ながら昨年度並みの公開授業を実施し、授業改善に繋げることができた。	B	校内授業研究会の実施方法を検討し、同一教科の先生方が研究授業を参観できる態勢づくりを行う。学習指導要領改定に向けさらに研修を深めた	
		③多様化する生徒の理解、教職員の支援体制の強化のため、年2回以上職員研修を実施する。	職員保健研修会を2回実施し、Q-Uの活用と学級づくりと、アレルギー疾患対応についての研修会を実施した。学科独自の研修を持つ機会がなかった。	A	生徒の状況に対応し、教職員の研修会を実施し、よりよい学級集団づくりの支援を行う。また、担任への支援の必要性が高まり、どのような支援をどこまでできるか検討する。	
(7) 真室川校との連携による学校活性化を図る。	学校行事を中心に、教員・生徒の交流を深め、学校の活性化が図られているか。	①芸術鑑賞・産業田植え競技会といった学校行事等を通して真室川校との連携を図り、キャンパス制の充実を図る。	学校行事での真室川校との連携を密にし充実した生徒間交流が行えた。芸術鑑賞・田植え競技会は学校行事という認識を持って参加でき、その際には、真室川校との交流を行うことができた。	B	次年度も交流を密にし活動の充実に努める。また、連携する中で、学科として取り組めることがないか検討する。	B ・芸術鑑賞・産業田植え競技会という生徒同士が直接交流できる学校行事を通じて真室川校との連携が図れているものと思われる。現在、これらの行事の企画及び運営が各校の生徒が主体となっていると思うが、そういう状況にないと思えば、生徒主体にすることで、もう少し連携が深まると考える。
		②公開授業等を通して、校種の枠を超えた真室川校との新たな指導法の取組みを行う。	公開授業を実施したが、指導法の研究協議まで至らなかった。	C	公開授業に時期や実施方法について検討する。	